

発行：弘前大学大学院地域社会研究科

http://www.hirosaki-u.ac.jp/Tlag/index.html

編集協力： NPO法人ひろだいいりサーチ

印刷： やまと印刷株式会社

つなげた後に、持続させていく地域との連携



大学院
地域社会研究科長
北原 啓司

二期目の地域社会研究科長の任を務めさせていただくことになり、早くも一年が経とうとしています。佐々木副研究科長を始めとする専任教員の皆様のご協力、そして、学務部教務課のスタッフの確かなワークのおかげで、なんと一年を乗り越えられそうです。

三年前の春に研究科長に就任以来、地域社会との関係性が高い本研究科では、地域との連携をさらに強化しながら、地域に対して実質的な貢献をしていくことを考えた実践を続けてきています。一昨年度から続けてきた青森県からの受託による「集落地域の実態把握と住民主体の計画・目標づくりに関する研究」は、学生インターンと若手研究者のファシリテーター派遣という実践的ステージに移行しています。また、「あおりリズム創発塾」の活動は、「食」をテーマにした実践を深めながら、さらに多面的な展開となって進んでいます。研究科の専任教員への、様々な自治体からの研究会講師やワークショップのアドバイスの依頼は、ますます増大しています。

また、二〇一六年度は嬉しいニュースが続きました。専任教員である平井太郎准教授と昨年3月に学位を取得したOBの工藤裕介氏がともに日本都市学会論文賞を、さらに客員研究員の三浦俊一氏がDSA日本空間デザイン賞銀賞を、そして私も第5回住総研清水康雄賞を受賞

させていただきました。

さらに特筆すべきは、弘前大学初の大学院レベルの連続公開講座「地域社会研究科公開セミナー」を、地域社会研究科の専任教員と私とで実施し、全4回の講座に93名(累計)もの社会人の方々を受講してくださり、大変好評であり、社会人入学の動機づけにも直結しているということです。

地域との連携を進めていても、受託研究や補助金の期間が終了してしまうと、それっきりになつてしまふという残念な事例が結構あるようです。我々は、せつかく持ち得た地域との連携をさらに持続させ、新たな展開を目指しながら、積極的にその成果を発信していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域の未来づくり サポート事業

一昨年・昨年度の青森県委託事業、集落経営再生・活性化事業を引き継ぐかたちで、地域住民が持続可能な未来を展望する上で大学が果たしうるサポートのあり方を探る取組みとして、「学生インターン」と「ファシリテーター派遣」を実施した。

「学生インターン」は、学部学生が十日間程度地域に滞在し、受入団体の活動に参加したり住民と交流したりするなかで問題意識を育み、最終的に自身の考えを地域に伝えると同時に、学生を何のために受け入れるのか、そして学生の声を受け地域がどのように変化してゆくのかを大学としてフォローしてゆくものである。今回は、弘前市・常盤野地区、横浜町・道の駅よこはま、三戸町・産直SANSUNひろば十ホー

ムステイ受入協議会に受け入れていただいた。常盤野地区以外は大学生の長期受け入れは初めての経験で、宿泊場所や体験してもらう活動内容など暗中模索だったが、学生の訪問を機に地域がまとまり、学生の声に応える新たな動きも形成された。次年度も本学学生以外にも参加しやすい態勢を整え、それぞれの地域の活発さを引き出し、フォローアップを続ける予定である。

「ファシリテーター派遣」は、高い専門性を有する当研究科関係者がファシリテーターとなつて地域に入り込み、住民の方々の主体性を引き出しながら具体的な地域課題解決に取り組むものである。今年度はこれまで集落経営再生・活性化事業で集落活性化に取り組んでいた、平内町藤沢地区と七戸町白石地区に当研究科のOB等を派遣し、継承が危ぶまれている地域伝統芸能の存続に向けた住民による活動の形成や、地元でとれる農作物の直売施設の住民主体の運営体制の構築を支援した。白石地区ではすでに昨年度までに生み出されていた取り組みを強化して継続的活動に繋がれた。藤沢地区では国道沿いの空き倉庫を活用・改装して新たに「直売所ふんちゃ」をオープンさせ、獅子舞の囃子の楽譜作成や後継者育成を図った。

(准教授・平井 太郎)

／土井 良浩



あおもりツーリズム創発塾

二〇一七年度から続く青森県委託事業で、津軽地域の観光人材の育成に取り組んでいる。これまでの人材育成が即戦力を生まなかつた反省を踏まえ、人材を単独ではなくグループとして育てる実証研究を重ねてきた。今年度は、これまで育つた黒石市、板柳町などの先輩団体とともに、中泊町の若者団体・いいなかどまりが新たなコンテンツとして注目されている「地形」をメインとしたコース造成のほか、県内にも広がりつつある地域おこし協力隊のうち弘前市の隊員が伝統行事団体とともに進めたツアー造成を支援した。さらに、昨年度に引き続き、B級グルメでも郷土料理でもない今を生きる人びとのソウルフードを掘り下げるべく、雪深くかつ海山里川の幸に恵まれた津軽ならではの「保存食」をテーマとした公開講座を開催し、その中で保存食のフルコースを試食するワークショップも実施した。次年度も着実に人材のネットワークを広げ、資源の深掘りを続ける予定である。

(准教授・平井 太郎)



地域社会研究科公開セミナー 「人口減少社会における地域創生とは」

本研究科の研究科長と専任教員が講師となり、周辺地域の社会人を主要対象に大学院レベルの学びを提供する、公開セミナーを本学講義室で十々十二月にわたって全4回開催した。本セミナーは地域社会研究科の授業力リキラムを開放する研究科では初の試みであり、各回とも県内外から自治体職員、教育研究関係者、地域活動団体関係者、研究科学生等、定員を超える多数の方々が出席され熱心に受講された。

出席され熱心に受講された。

○第1回 成熟社会の「まち育て」 (北原 啓司)

○第2回 地域経営における地場中小企業の役割

―経営改革とソーシヤル・マーケティング―
(佐々木純一郎)

○第3回 地域に根ざした仕事づくり (平井 太郎)

○第4回 市民主体の

「まちづくり」の展望
(土井 良浩)

(准教授・土井 良浩)



二〇一七年度 地域社会研究科学位論文について

今年度は左記の三名から学位論文審査申請があり、二〇一七年二月四日に公開審査会が開催され、それぞれ研究成果の発表と質疑応答が行われた。

○村上早紀子

「地域モビリティを育てる」

「CO交通」の形成に関する研究 (主査：北原啓司教授)

○早川 和江

「青森県産食材の介護食への利用に関する研究」

(主査：内山大史教授)

○大山 祐太

「知的障害者スポーツにおけるマネジメントモデル構築に関する研究」

―若年層ボランティアの活動継続性向上を企図して―
(主査：増田貴人准教授)

これらは、地域公共交通、介護、ボランティアといった現代の地域社会を考える上で重大な課題をテーマとした

実践的研究であり、審査を経て全てに博士(学術)の学位授与が認定された。
(准教授・土井 良浩)

地域社会研究科後援事業

「地域政策課題に取り組みろだいいリサーチ平成二十八年度活動報告会」

NPOひろだいいリサーチ報告会が、二〇一七年二月七日、青森市リンクモア平安閣市民ホールにて開催された。青森大学井上隆教授の司会によりひろだいいリサーチが受託・助成された事業に関して次の報告が行われた。

○谷口 清和 清和 研究員

「JICA青年研修アグリツーリズムについて」

○竹ヶ原 公(当研究科客員研究員)

「地域社会を通じて考える青森県で働くこと・生きることのポテンシヤル研究について」

○佐々木純一郎(弘前大学教授)

「地域に根ざした移動販売のこれまでの社会貢献的役割について」

討論では、青森大学岩淵護准教授をはじめ、出席者から熱心な質疑応答がなされた。最後に、ひろだいいリサーチが地域政策課題を引き続き研究することが確認された。(教授・佐々木純一郎)



入試案内

弘前大学・大学院地域社会研究科の入学試験については、左記までお問い合わせください。

弘前大学学務部入試課

〇一七二一三九一三九七三
三一九三

★当研究科では、所属する教員や学生が研究成果等を発表する「地域社会研究会」を公開で定期的に開催しています。興味のある方は、左記までお問い合わせください。

弘前大学学務部教務課

〇一七二一三九一三九六〇